

パイロットのためのパラシュート講習（2013年春コース）

はじめに

現在、グライダーをはじめ多くのパイロットが、それなりの手間と時間、お金をかけてパラシュートを装備して飛行しています。しかし、民間パイロットのトレーニング・シラバスには、パラシュート降下の知識や経験は、含まれていません。あと少しの手間や、ちょっとした注意の不足で、せっかく装備しているパラシュートが活かせないとしたら、それは残念なことです。また、ベイルアウトには至らないまでも、緊急時に対処できる備えや自信は、より安全なフライトの実現にもつながります。たとえ畑違いであっても、多様なリスクマネジメントの技術を習得することは、パイロットの経験としても決して無駄ではありません。

講習の目的

パラシュートの構造や取り扱いに関する知識を学習するとともに、実際の降下体験を通じて、その操作（操縦）と危険回避の技術を習得します。

パラシュートに関して、次のような疑問を持ったことはありませんか？

- どんな状況で降下を決断するのか？
- どのくらいの高さがあれば飛び出せるのか？
- 開いたあと、どうすればよいのか？
- 日常の取り扱いはどうすれば適切なのか？
- どんな構造になっているのか？
- どのような危険があり、どうすれば安全なのか？

カリキュラムとスケジュール

- 学科講習、実技講習は、日本落下傘スポーツ連盟の訓練安全委員会の監督のもと、認定講師によりスポーツ安全規則にしたがって行われます。
- 1日目の実技講習で一定の技量が習得できない場合は、2日目の降下実技をインストラクターの判断で延期する場合があります。
- 2日目の降下実技は、天候判断により延期する場合があります。
- 健康であれば、特に参加資格はありません。講習は、自家用操縦士程度の知識を前提に行われますが、必要であれば丁寧に解説します。

1日目	学科 ・ 航空機の緊急時対処について ・ パラシュートの基本的な構造 ・ パラシュートの取り扱い方法 ・ パラシュートの操縦方法	実技（地上練習） ・ 機内動作、降下方法 ・ 空中姿勢、開傘動作 ・ 着地方法 ・ 緊急時対処方法
2日目	実技 3,000ftからのS/L降下*（2回）	

※ S/L降下とは、パラシュートの開傘システムと航空機に固定したワイヤを、スタティック・ライン（static line）と呼ばれるロープで繋いで降下する方法です。自分でパラシュートを開かなくても、飛び降りると自動的に開くようになっているため、簡易かつ安全性が高い降下方法です。

費用 45,000円（学科および実技講習+2回分の降下料金を含む）
5,000円（1日目午前の学科のみを受講する場合）

- 上記費用には、受講料、講習資料、装備品、降下料金、保険料が含まれます。
- 宿泊、交通費、食事代などは含まれません。

開催日程（場所：大利根飛行場）

- 第3回 2013年5月18日、19日（降下定員4名：学科のみ定員6名）
- 第4回 2013年6月1日、2日（降下定員4名：学科のみ定員6名）

募集締め切り4月20日（降下には、航空法第90条による降下申請、スポーツ保険への加入などが必要なため、直前の申し込みは受け付けできません）

申し込み・問い合わせ

JMGC/JPSA 会員：染中俊雅 somenaka@gmail.com または 090-1791-8084

主催 日本落下傘スポーツ連盟 (TEL: 042-797-2069)
日本モーターグライダークラブ (TEL: 0297-84-3528)
後援 公益社団法人日本滑空協会 (TEL: 03-3519-8074)